

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム福平
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市
記入者名 (管理者)	向原 仁美
記入日	平成 20年 3月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	利用者がこれまで生きて来た、それぞれの人生をその人の尊厳を大切にしながら、その人らしく且安心して暮らしていけることを理念としている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎日の申し送り時に、理念を唱和している。理念は、スタッフルーム、玄関、和室に掲示しており、日々念頭において実践出来る様取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	すべての職員が利用者一人ひとりの状況を把握し、その人らしく安心して暮らしていける環境作りをしている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	近隣の住民よりて手作りの食物等を頂いたり、又ホームからもイベント等の時に作った食物を届けたりと互いに交流を図っている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地元の中学校の資源回収の際に駐車場を提供したり、又回収物も協力したり、野菜作りの指導を仰いだりしながら地域との交流に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>入所の全利用者への支援は当然の事ながら、地域社会でもホームの存在感を示しつつ、地域の高齢者の心の拠り所となるべく活動が出来る様活かし方を探して行きたい。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の意義は職員も充分理解しており、評価を受けることにより、ホームのケアの質を向上させ職員自身もより高いケアを身に付けられる事を理解している。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域代表、家族代表、民生委員等に参加を願い、その時々課題点や問題点を提起して意見を頂いたり、体験談等を伺ったりしながら参考にしケアに活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターより職員の方に参加して頂き、他ホームでの状況や現況を伺い自ホームのサービス向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に成年後見人制度利用者も入居しており、日々の生活の中で各々対応している状況を必要に応じて報告するなど活用している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>月一回のケース会議時に互いに意見交換し、介護のみならず言葉での虐待についても防止に心掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては項目ごとに双方確認しつつ疑問点については、その都度質問を受け説明し理解を得られる様心掛けている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々のケアの中で利用者の意見、不満、苦情等を引き出せる環境作りを心掛けている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時の報告や遠方の家族への報告は、月一回の請求書発送時、又は必要に応じて電話で報告するなど、その都度、臨機応変に対応している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に苦情相談箱を設置しており、また面会時等でも、家族に投げかけて意見や苦情等がないかの問いかけをしている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常的に職員からの意見を吸い上げ意見交換をやっており、ケアや運営に反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況に応じて、勤務変更は随時、臨機応変に対応している。特に県内遠方の家族の面会等の勤務変更は優先的に行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職の際、最小限の職員での対応もあり利用者に対してのケアが行き届かなく思う面もある。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任採用時は、生活の流れの中で実施研修をしている。夜勤者以外全員「谷山地区グループホーム勉強会」に月1回出席し勉強している。法人内外の研修にも積極的に参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区のGH勉強会への参加を勧めており、学びの場としている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニット独自で懇親会や誕生会等開き、ストレス軽減や働きやすい職場になる様環境作りを心掛けている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々に対しては、常に向上心を持って働き、資格を有する為の助言や環境作りに努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	言葉で表現出来ない利用者に対しても日常の行動から困っている事や求めている事も把握し解決への努力をする。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時等家族、利用者を含めて面談の時間を設け、双方よりの話を聴き問題点を探って行き問題解決に努める。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と面談する中で、もっとも必要としているサービスは何であるかを見極めて、それを中心としたサービスを提供している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が不安がる事無く、ホームに馴染んでいく中で、本当に必要とするサービスを提供する。 家族、本人双方との面談を重ねながら、納得できるサービスを提供する。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人と対等な立場で接しつつ、人生の先輩としての指導を仰ぐという形で一人ひとりの得意な事や好きな事を、日々の生活の中で生かすべき対応をする。自信を持って生活出来るような支援をする。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は、本人を中心にしての同志的立場で喜怒哀楽を共にしつつ、利用者がより安心して生活できる場である様な関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族とは何でも相談しながら、より強い信頼関係を築きながら密の濃いサービスを提供していく。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会等についても気軽に気持ちよく来所できるよう、声掛けし対応している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活の中で、お互いに理解し合える利用者同士を隣や同じテーブルにするなどの、ホームでの生活が孤立せず、楽しい生活の場である様に、常に利用者の人間関係に気配りしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や施設への入所の為、退所した利用者についても職員は家族と連絡を取り合ったり、面会に行くなどの友好的な関係を保ち続けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生き方や趣味ややりたい事などを、日々の暮らしの中で探って行き、ホームでもそれらを生活の一部として取り入れてゆける様支援している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人からの情報引き出しが困難な利用者に対しては、家族から生活歴を聞いたり、又日々生活して行く中で、本人を観察する中で把握できる事もあるので、日常生活の細かな事も見逃さず情報収集する様努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホームで暮毎月ケース会議の中でスタッフ全員の意見を確認した上で、より本人に即したケアを提供する。家族に対しては、折々に触れて本人の状況を説明している。らしている中で、その人となりの生活パターンが掴めるので、その人のリズムを崩す事がない様安心して暮らせる様支援する。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケース会議の中でスタッフ全員の意見を確認した上で、より本人に即したケアを提供する。家族に対しては、折々に触れて本人の状況を説明している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	夜勤者以外全員が出席するケース会議の中で、少しずつ変化する利用者の細かな点も見逃さず、本人、家族の納得出来るケアプランに修正し支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は異変や気付きは細かく記録し、本人の言動についても具体的に、言葉のやり取りも正確、且詳細に記録するようにしている。記録する事により、職員全員が情報共有し統一した支援に繋がっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に合わせて一人ひとり又は、その時々々の要望に応じた対応をしている。(訪看受け入れ、マッサージまたは、家族との外食など個々の対応をしている。)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームの年間行事の中で、関わりを持つ中で、地域の民生委員、消防署、派出所等気軽に連絡を取り、立ち寄ってもらえるよう環境作りをしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の要望や必要に応じて、訪問看護の入浴やマッサージを受け入れたり、また、マッサージを受け入れたり、歯科治療等も受け入れたりしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	奇数月に開催している運営推進委員会への参加を呼びかけ、他ホームの情報など貴重な意見として、参考にしたり、生かしたりしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診については、本人、家族の意見を尊重し、主治医の往診や通院等、本人が不安がる事がない様な支援をしている。かかりつけ医も気軽に声掛けして、安心して診察を受けられる様な雰囲気を作ってくれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の殆どの主治医が認知症の専門医なので、その都度、必要に応じて職員や家族が相談し、その時々に応じた検査や服薬等の相談等を行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内の看護師や訪問看護師と常に連絡を密にし、日々の健康相談や管理も細かに行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は面会に行ったり、家族からの情報を得たり又、直接担当医より情報を得たりしながら、退院に向けての取り組みをしている。リハビリ等についても進行状況の確認をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期医療行為を拒否された家族については、主治医、家族双方と、利用者本人にとって最良の終末の迎え方はどうであるのかを頻回に話し合った。また、家族間の意見の統一化も確認した。		本人の意思確認が確認がなされたとは言えない状況の中で終末期を迎えた利用者の対応をした。意思確認の困難さを知ったが、今後の最大の課題として取り組んでいきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	寝たきりの利用者も居るが往診、訪看を利用し、家族とも常に情報共有しながら対応している。特変事は、家族、病院双方に連絡を取り、入院等の対応をしながらホームでの最大限のケアを実施している。		終末期を迎える利用者は、現在入所していないが、今後は順次家族に確認し、家族、かかりつけ医、ホーム間でチームとして取り組みたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームで知り得た情報やケアプラン等も含めて、利用者が別の居所へ移り住んでも、混乱や他のダメージを受ける事がなく、スムーズに溶け込める様な情報提供をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>低限の個人情報の共有は、ホームとして当然であるがプライバシーに関する声掛けや対応はしていない。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の生活の中で、常に本人がどのように生きたいのかを探りつつ、本人の思いを大切に、不安なく心豊かに暮らせる様、家族の思いも尊重しつつ支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の日課についても利用者本人の意志を尊重し、拒否があっても強要する事無く、利用者本人の思いのままの行動を支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月一回馴染みの美容師に来てもらい、カットしてもらっている。毎日の衣服に関しては本人の希望する衣服を着用</p>	<p>自分の意思表示の不可能な利用者については、職員が整えた衣服を着用している。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューを作る際、利用者の好みや食べたい物を聴いたりしながら、提供している。また、配膳、下膳や準備等においても、一人ひとりの出来る所を活かしながら楽しい食事になる様支援している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒、喫煙に関しては、ホーム内では該当者は居ないが、嗜好品等については、一緒に買い物に行ったり、家族から差し入れて貰ったりしながら対応している。また、希望に沿って、おやつとして提供するなどしながら、お茶の時間も楽しめる様支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>尿意が伝えられない利用者については、定期的な声掛けや案内をしている。また、言動に於いても排泄が伝えられる利用者が居るので様子を見つつトイレ案内している。</p>		<p>オムツに関しては、尿意のない利用者も居る為、使用を減らす事は困難であるが、利用者の小さなサインを見逃さずに減らす努力をしたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>AM、PM利用者の体調やタイミングで実施している。また、次の日に入浴する事もある。また、温泉を希望している利用者には、温泉の素を使用するなど臨機応変な対応もしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>特に消灯時間は、設けず利用者自身が休みたい時間に休んでいる。時間の理解が出来ない利用者は、声掛けや就寝介助するが、就寝については、本人の意志に任せている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事の準備や日々の単純な作業等で一人ひとりに出来ることや得意なことを分担して、ホームの一員としての役割や自信を持って生活出来る様支援する。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持している利用者は、一名だけだが、家族より頂く大切なお金なので、大切に使用して頂きたいと思って支援している。家族より浪費癖を常々聞かせているので、担当職員と相談して不要な購入はしない様留意している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外食希望の利用者の支援や食材購入の際の同行など、職員が声掛けて1から2名の外出も時々実施している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族にも相談して、美術館や好きな食べ物を食べに行くなど、利用者の希望の所へ行ける様支援している。</p>		<p>海外や北海道への旅行を望んでいる利用者が居るが、短期間での旅行を家族と一緒に出来る様支援したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が掛かって来る利用者には、家族に近況を報告後取り次いでいる。また、手紙も来るが必ず変事を出す為、職員が預かりポストに投函している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問し、また、家族等の望む場所で面会し、居心地良く過ごせる様対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のケース会議で、身体拘束についての意義や具体的な事例等で検討会を開いており、身体拘束をしないケアを職員一同が当然の事だと理解している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室等どこにも施錠していない。外にも自由に出て行けるが、職員は安全性を確認しつつ見守り介助している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊の利用者も居るが、行動を制止するのではなく、利用者の動きに合わせて、共に行動したり、見守りしたりしながら常に安全に留意したケアを心掛けている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	トイレトーパーや洗面台の共用の手拭タオルを相当量、居室へ隠し持っている利用者があるが、不定期(外出の際等)に複数の職員で居室をチェックしている。		本人を傷つけることなく居室のチェックをしている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行不安定な利用者の見守り、声掛け介助、転倒骨折後の利用者の車椅子の安全使用、また徘徊があり一人で外に行く利用者の見守り等、職員一人ひとりが目配り、気配りしつつ事故防止に取り組んでいる。		一瞬の油断が転倒等の事故に繋がる為、常に利用者に寄り添うケアが出来る様職員一同で取り組みたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応については、月1回のケース会議等に連絡、対応の優先順位を話し合い確認している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署の訓練や指導で避難訓練を行っている。1階2階また、日中、夜間帯と火災を想定しているが、利用者には常々自分で避難する様、事ある毎に話している。		防災訓練や消火訓練のみでは、利用者への訓練は不足だと思われる。近隣への働きかけは、今のところなされていないので、同グループの施設間含めて取り組んでいきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時等に、いつ不測の異変が起こる事があるかもしれない事を随時説明している。また、その場合の対応も具体的に説明している。		現在ADLが自立している利用者に関しては、現実問題として、余り重要視していない面もある為、家族への説明不足の利用者もいる為、全利用者の家族へ徹底したい。
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックと日々の様子観察により、異変の発見に努めている。気付いた際は、すぐさま情報共有し役割分担しつつ対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をチェックし、内容を確認。服薬時は一人ひとりに応じた支援をしている。(袋から出して差し出す、直接口の中に入れる)等確実に服用するようも届けている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日10時にジュース(バナナ、ヨーグルト、オリゴ糖、牛乳)を全員飲用。また、排便の周期を把握チェックし水分、繊維性の食物を多めに摂取するなど対応している。散歩(歩行)や腹部マッサージ等も随時行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、洗面台への声掛けと誘導をしている。具体的にコップに水を汲み、口腔ケアを促したり職員が義歯を外し口腔ケアをする利用者もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食や一口大にしたり、また、食事量も一人ひとりにあわせて提供している。		水分補給が充分でない利用者に対しては、家族と相談してお茶ゼリーを作り、更にオリゴ糖を加えるなどして、必要な水分を補給出来るよう対応している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	洗面所には、手拭き用のおしぼりを置き、日に何回も洗濯しており、玄関には使い捨てのマスクや消毒用のハンドパスを設置。職員も個々に手拭タオルを持ち感染症予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は使用の度、熱めのお湯で洗い、その都度乾燥機を使用している。また、必要に応じてハイター消毒も行っている。食材は、乾物や根菜以外は、買い置きせず新鮮な物を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は施錠なしでいつでも気軽に入出入りできるようになっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこも出入り自由であり、カーテンや暖簾を有効に使い、また、庭や畑から季節の花や雑草の花などを摘みテーブルや玄関に飾り、季節感を採り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室は利用者が好きな時間に横になったり、新聞を読むなどの好きな過ごし方をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの備品であるベットやタンスの外、自宅から持って来た馴染みの身の回りの品々に加えて、大切な家族の写真や思い出の品など一人ひとりの個性ある居室になっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床時に、尿臭の強い利用者については居室の窓を開けたり、エアコンで送風するなどの換気には留意している。トイレの尿汚染(臭)も気付いた時点で、その都度、床を消臭、拭き取りをしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の両サイドに手すりがあり歩行時は声掛けや見守りをしており、又歩行不安定の利用者については後ろまたは横で見守り介助をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	廊下や居室にネームプレートや、トイレ等のプレートで表示しており、更にそれぞれの目的の場所に声掛けしたり、案内したりしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周を職員と一緒に散歩したり、畑の野菜獲りをしたり、又ベランダで日光浴をしたりと、それぞれ楽しむ方法を生かしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・職員と利用者がほぼ対等な立場で対応している。
- ・こうあるべきという決まり事を作らず一人ひとりの利用者の人間性を尊重している。
- ・職員も自分の得意分野をケアに活かしている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム福平
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市
記入者名 (管理者)	向原 仁美
記入日	平成 20年 2月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりが地域や家庭において当たり前暮らししてきた生活を、可能な限り自立した生活が継続出来るよう理念を作り上げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念を唱和し、ホール、スタッフルームに理念を掲示して、常に意識できるようにしている。職員は日々の生活場面において、一人ひとりその人らしい生活を把握しており実践に向けて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関、ホールに、理念を掲示すると共に、契約時に説明を行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	積極的に挨拶を行うよう心掛け散歩等外出時も、積極的に声掛けを行うように努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	校区の運動会や、地域の夏祭り、ふるさと祭り、清掃作業に参加し、地域の人々と交流が持てるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	ボランティアによる、日本舞踊観賞会の際は地域の高齢者にも声掛けを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	職員は評価の意義を理解しており、今年度の自己評価も運営者、管理者、職員が共に考え、各ユニットにおいて具体的な改善点をあげ、改善目標を立て取り組んでいる。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	19.1.に第1回運営推進会議が開催され、現在7回目が終了している。民生委員、包括支援センター、地域の住民の方々に参加して頂き、意見交換を行う会となっている。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	南部保健センターで献立について、アドバイスをもらうことで、食事のバランス、糖尿病食、高血圧症食について知識を得ている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	権利擁護について学び、必要な人には、弁護士、社協職員と連携を取りながら支援している。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	定期的に身体拘束委員会を行い高齢者虐待防止関連法について学び事業所内で虐待が見過ごされないよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、契約書、重要事項説明書の内容を読みあげながら説明を行い、不安、疑問点には、その都度、確認しながら説明を行っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の訴えに耳を傾けるよう努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族には全員にホームでの様子や、写真、請求書を郵送している。 健康状態に変化がある場合は、その都度電話で知らせている。又、面会時には、日ごろの様子等を話している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の意見、苦情、不満が書き易いように、玄関に意見箱を設置し、そばにメモ用紙を設置し、意見を書き易いようにしている。又、苦情委員会を設けて、早期に対処している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者は多忙な時でも、快く職員の意見に耳を傾け、解決に努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者が入居したばかりで不穏な時や家族からの病院受診の依頼等があった場合は、連絡調整を行って、柔軟に対応出来るよう努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は職員の異動が利用者にも与えるダメージは、十分確認しているが、各ユニットが均一なサービスとなるようにユニット内の異動をしている。各ユニットの交流をもち、声掛けが出来るようにしてダメージが最小限になるように努めている。退職の場合は職員とお別れ会をしたり、退職後も遊びに来れる関係の配慮をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任採用時は、生活の流れの中で実施研修をしている。夜勤者以外全員「谷山地区グループホーム勉強会」に月1回出席し勉強している。法人内外の研修にも積極的に参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホームは、28のグループが参加していて、同業者の情報交換、交流、勉強、相互訪問が行われたり、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、何でも話し合える雰囲気作りに努めている。また、食事会等によりストレス解消に努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を多方面から把握することに努めている。忘年会において永年勤続者等を表彰したりして、各自が向上心を持って働けるよう努めている。	運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を多方面から把握することに努めている。忘年会において永年勤続者等を表彰したりして、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初はどうしても家族、担当ケアマネ等からの相談が多いが、利用に至るまでに本人とも面談する機会を作り、本人自身が困っている事、不安な事をよく聴き受け留めるように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が納得して安心できるよう、その都度、困っている事、不安な事を傾聴し受けとめるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時、本人、家族に対して、何が必要なか見極め、いろいろな可能性を視野に入れ対応するよう努めている。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が納得出来るよう、ホームに出入りをして、職員や他の入居者の方と馴染むことが出来るように努めている。急に入所となった場合はご家族に協力して頂き共に食事をしたりして、馴染みやすくなるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者の生活暦や趣味を知り、得意な事は出番の機会を作ったりして、常に人生の先輩である事を意識しながら学んだり、支えあったりしながら共に過ごしている。</p>		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族には、面会時の声掛けや、電話連絡等により、コミュニケーションを図り、思いを共有しながら一緒に本人を支えて行けるよう努めている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>職員は面会時に入居者の生活暦等のさまざまなエピソードを聞いたりしながら、本人とご家族との関係を理解し、より良い関係が築いていけるよう支援している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>身体能力の低下により、馴染みの場への外出は厳しいが、馴染みの人と気軽に面会外食が出来る雰囲気作りに努めている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者それぞれの性格、認知症の程度等を考慮しながら、座席も配慮し、利用者同士がやさしく関わり合えるよう努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、入院中の病状をご家族に確認したり、お見舞いに行ったりして、利用者家族との関係を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦や、ご本人ご家族との会話の中や、生活の中から一人ひとりの重い(散歩、買い物、踊りたい、唄いたい等)意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族との会話、日々の生活の中から、これまでの暮らし方、生活環境等の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のミーティング、定期的なスタッフ会議等により一人ひとりの心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を確認し、月1回スタッフ全員で一人ひとりの介護計画の見直しや支援方法などについて、カンファレンスを行いご本人、ご家族の希望、要望を反映したプランになるよう努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月始めに、職員は、夜勤者以外全員で入居者一人ひとりの現状が、ご本人ご家族の意向、現状に即しているか、プランの見直しに取り組んでいる。又、現状の変化があった場合も、ご本人、ご家族、必要な関係者と随時プランの見直しに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、サービス記録、与薬チェック表、個別の医療連携連絡帳を活用し、情報を共有しながら実践や、プランの見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院、通院等の外出支援等、ご本人ご家族の要望に応じた柔軟な支援がなされるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方々による、日舞やゴスペルコンサートを行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人ご家族の意向、必要性に応じて歯科の訪問診療や、福祉用具等の利用等、サービスの活用支援に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	第7回運営促進委員会へ参加して頂き、当ホームの現状等を説明し意見交換を行った。今後は総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働していけるように努めたい。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望するかかりつけ医を優先し、合意の上でかかりつけ医と連携を取りながら支援している。緊急時には、往診を受けられる複数の医療機関の体制も出来ている。契約時、通院の付添いの説明はご家族にしており各自の希望する付添い方法で受診し、受診後は情報伝達もなされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	「物忘れ外来」を行っている、認知症に詳しい医師に定期的に診療をしてもらい、状況の変化等、アドバイスを受けたり、適切な診断・治療が受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者をよく知る看護職員と日々の状況の変化等連携を取りながら、日常の健康管理を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、早期退院の為の話し合いや協力を医療機関と行い、出来るだけ、速やかに、退院出来るようにしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化、終末期の付いて、ご本人ご家族の意向を聞いており、又入居時にまで確認の体制が出来ていなかった方に関しては、面会時等意向を確認するようにしている。その方針は全員共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は健康状態が安定しているが、高齢な為急変は考えられる。健康状態の変化について、主治医、看護師と連携を取り、チームとしての支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人がグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分話し合い情報交換を行い、住み替え後、スムーズに新しい環境に馴染めるようにしている。又住み替え後も連携を取りダメージを防ぐよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>管理者、計画作成担当者は、日頃一人ひとりを大切にする、言葉掛けや介護方法を職員と話し合い、意識の向上を図っている。また、職員はよく理解して対応している。個人情報保護法や取り扱いについても周知している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご本人の表情や仕草等気を付けて、思いや希望を思いや希望を受け留められるよう。また、ご本人のペースで暮らせるよう支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご本人の希望や体調に配慮しながら、起床時間、個室での食事、買い物、散歩、昼寝、掃除、入浴等日々その人らしい暮らしの支援がなされている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人の好む色や服を理解し、心地よくおしゃれが出来るように努めている。外出が困難な方も、美容師さんに来所して頂き、その人らしい身だしなみに心掛けている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立を一緒に考えたりして、メニューに好みの意見を取り入れるようにしている。ご本人の力量に応じて一緒に菜園の収穫、食事準備を行い、楽しく会話をしながら同じものを食べている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人が望む飲み物おやつ、食材等好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	一人ひとりの力や排泄のパターン習慣を理解し、適切に声掛け介助することにより、排泄の失敗やおムツの使用を減らせるように努めている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	一番風呂に入りたい人、午後から入りたい人、一人ひとりの希望やタイミングに応じて楽しく入浴出来るように支援している。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	一人で居室に居るのが不安な人、なかなか寝付けない人、さまざまだが、不眠時はホットミルクを飲んでもらったり、話をしたりして、安心して休息、眠れるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	職員は、入居者の散歩、掃除、料理、テレビ、踊り、うた等それぞれの楽しみ事を把握し、日々の生活の中で、役割をはずすことにより、生き甲斐になるよう支援している。全員で月1度は外出に出掛けたり、手作り弁当で花見に出掛けたり年1回は一泊旅行をしている。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	一人ひとりの希望や、力に応じてお金を所持し、必要に応じて一緒に買い物に出掛けたり、欲しい物を頼まれて買って来たりしながらお金を所持したり使えるようにしている。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	晴天の日は、日課として散歩をしている。又ホームの庭は広く芝生が敷き詰められて、季節の花等植えられ、遠くへ出掛けられない人も外の陽や風に触れることが出来るよう中庭の散歩も行っている。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	個別的にはあまり遠出は出来ないが、全員で一泊旅行に行き、普段乗らないマイクロバスやフェリーに乗ったりした、今後もこのような企画を立てていきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に電話をしたいときは、電話が出来るよう支援している。手紙のやり取りは現在行っていないが、季節ごとに絵手紙を書いてご家族に出すようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、家族・知人・友人等、本人の馴染みの人達が、いつも気軽に訪問してくれていると思う。居室でゆっくり談話したり、ホールで他の入居者、職員とも談話したり、居心地よく過ごせるように心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し、身体拘束について全ての職員が周知しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関やホールの窓は、鍵はかかっていない、外出傾向のある人には、日課に散歩を組み入れたり、職員同士声を掛けあい、一人で出てしまわないよう配慮している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間はほとんどホールで過ごす方が多いが、居室でくつろぐ際も、定期的に声掛けを行ったり、所在や様子を把握するように努め、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	掃除用洗剤等、注意の必要なものは扉付きの棚に置いたり、芳香剤はゼリー状でケース入りのものにしたりして危険を防ぐようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に防災(火)訓練、救急措置の講習、事故防止委員会を開催し、事故防止の為の知識を学び一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急処置の講習会を1年1回実施し、実際に人工呼吸や異物除去法の訓練を行っている。又連絡網やマニュアルを事務所の目の付きやすい所に設置している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の訓練は年二回、さまざまな状況を想定して実施している。職員は火災を想定し連絡網、マニュアル、消火器も備えてある。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	小さな体調の変化等も家族に話したりすることにより、一人ひとりに起こり得るリスクについてご家族に説明し理解してもらえるように努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェック、毎月体重測定を行い、体調の変化が早期発見できるように努めている。又変化や異変に気付いたときは、すぐ看護師に報告し速やかに対応するように努めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が一人ひとりの薬を個別にセットする事によりケアスタッフが間違いなく投薬できるようにしている。又職員は薬の目的や副作用、用法について理解している。与薬チェック表を利用し漏れが無いように努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	10時にはオリゴ糖入りのホットミルク、毎日の食事、おやつには植物繊維を多く取り入れるように工夫している。水分補給も充分行うように心掛けている。排便状況を把握し、必要に応じて緩下剤を使用し、無理なく排便を促すように努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりの状況に応じて声掛けやセッティング、仕上げ磨きを行っている。定期的に歯科医師による口腔チェックを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については保健センターのアドバイスを受け、一日の栄養バランス、摂取量を把握している。一日の水分量についても、目安の分量を決めている。不足がちな人にも工夫して摂取確保に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ、肺炎球菌ワクチンの接種を怠っていない。面会時の手指消毒剤の設置や、ノロウイルス等に対する対処方法、浴室にも設置している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板、ふきんの消毒、台所の掃除を行い衛生管理に努めている。一日置きに買い物に行き、新鮮で安全な食材の使用、管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	オープンな作りになっており、又玄関付近や花壇には季節の花を植え、気軽に訪問出来るような雰囲気作りに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ドアの音がしないように工夫し、西日が“当たらない”よう窓にカーテンがされ、床は木目のフローリングで部屋を間違いが起こらないよう、入り口には名前を揚げ、共用空間には季節の花や人形等飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファやテーブル、和室を設置し気の合った利用者同士思い思いに過ごせるように工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室には、備え付けのベッド、整理ダンス、クローゼットがあり、その他の備品は持ち込みとなっている使い慣れたテレビ、時計、鉢植、写真、絵、人形等持ち込まれ、その人らしい個性のある部屋になっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	細めな掃除、換気を行っている。 室温計を設置し、外気温と大きな差がないよう注意している。 床暖房により足元から温まり、心地好い。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	さまざまな所に手すりを設置し、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるようにしている。 トイレのライトは、センサー式にしており、扉は引き戸で無理なく開閉出来るように工夫されている。和室は、一段高くすることにより腰掛けのまま使用出来る。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレにはプレートを設置し、分かりやすくしたり室名札を設置し、混乱しないようにしている。 混乱や失敗を招くような状況に気付いたら、その都度、速やかに改善するように努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑で季節の野菜作りをしている。 ベランダにも季節の花を植え季節感を楽しめるように努めている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者のあるがままを受け入れ、その人がその人らしく穏やかに暮らせる様、ご家族と共に職員一同頑張っています。
- ・笑い声、歌声の絶えない環境作りに努めています。